

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2990400075		
法人名	医療法人宮城会		
事業所名	グループホームみやぎ乙木口		
所在地	奈良県天理市三昧田町107-1		
自己評価作成日	平成27年4月6日	評価結果市町村受理日	平成27年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年4月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

宮城会の理念である医療と介護の提供のもと医療連携を密にし月2回の往診と週1回の訪問看護を定期的に受けている。昨年11月からは専属で看護師を配置体調の安定と異常の早期発見に努めている。また、物忘れ外来を継続している院長が精神面身体面両方を確認し内服薬の調整を行っている。希望により医療連携のもと看取り体制も確保している。今年4月からはホーム隣にリハビリデイ「ステップ」がオープンし入居者様も利用することができます。花壇や畑の活用は継続し敷地も広い為、野菜の成長具合や花を観ながらゆっくりと散歩をしています。地域との交流は幼稚園の運動会に継続して参加したり地域の店に出かけています。今年も季節をより感じて頂けるように外出の機会を増やし、野菜の収穫も継続していきます。また今年度は特に個別レクにも積極的に取り組んでいきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は、市街地より少し入った場所に開所されています。事業所周辺は自然が多く残り、穏やかに暮らせる環境にあります。事業所内は明るく清掃が行き届き、ゆとりを持って過ごせる空間が確保されています。利用者は、能力を生かしながら本人のリズム・ペースで穏やかに生活されています。地域社会との関わりを重視し、地域活動への参加や園児等との積極的な交流をされています。加えて、看護師を配置し、医療・健康面への充実に取り組まれています。また、職員も基本理念を大切に利用者支援されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	宮城会の理念、グループホームの基本方針はホーム壁面に掲示、ホームの理念は事務所や休憩室に掲げ、職員に周知している。	職員全員が正しく理解し、実践に活かされています。スタッフ会議でも話し合いが持たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への地域の自治会長と民生委員の参加や地域の幼稚園の運動会に継続して参加している。また、おやつレクで地域の店に出かけたり、中学生の職場体験の受け入れも積極的に行っている。	事業所も地域社会の一員と認識し、地域活動や地域との関わりを大切に運営されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で職員が参加した研修の話やホーム内で毎月行っている認知症の人への理解の取組などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容を月1回のスタッフ会議で報告し改善に繋げている。	定期的に運営推進会議を行い、サービスに関する具体的な話し合いをされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加頂いている。適宜空き状況は報告している。	運営推進会議で定期的に話し合いの機会を持たれている他、何かあればすぐに連絡をとる体制があり、連携を深めておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議にて職員へ周知している。また、夜間以外は玄関の施錠を行っていない。身体拘束ゼロ宣言を玄関の壁面に掲げている。	身体拘束をしないことの重要性を職員が共通理解し、日中は玄関を施錠することなく利用者の自由な暮らしを支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者がスタッフ会議時等で職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者がスタッフ会議時等で職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて書類の説明をし家族様や入居者様からの要望や質問があればその都度理解して頂けるまで説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常業務からの気づきや発する言葉を介護記録や気づきシートに残し毎日の引き継ぎにて職員に周知徹底。また、月1回のスタッフ会議等で活用し対応。運営推進会議では家族等の意見を聞き職員に伝えている。	家族の訪問時に不安に感じておられる事や意見・要望も聴取され、これらの意見等を記録・検討し、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回職員と理事との懇談を行っている。また、月1回のスタッフ会議及び適宜意見や提案に対応している。	毎月の全体会議で運営に関する事項について意見交換し、必要な事項は運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は事務所にありいつでも閲覧できるようにしている。また、職員が参加したい研修にはできるだけ参加してもらっている。評価シートを使い評価に乗った給与形態にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や希望を踏まえて外部研修に参加してもらっている。また、毎月所内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と時々電話や訪問で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に「暮らしの状況」を提出して頂き介護、対応の参考にしている。また、今困っていることは何か、心配な事はないかなどを話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間を作りホームでの生活や対応の仕方などを説明する。質問に対しても理解して頂けるまで丁寧に話をさせてもらっている。入居後は体調不良など変化があればすぐに連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅で利用していたサービスからここでの新しい生活に向かう為、家族や他事業所と連携して本人の気持ちを受け止めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の係わりの中で一緒に作業をしたり散歩に出かけたりなど楽しみを共に感じる環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話を通して入居者様の様子を伝えている。また、行事などにも参加して頂けるような働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との手紙のやり取りの援助や知人との面会なども続いている。	利用者は、事業所近くの方が多く、馴染みの場所周辺のドライブや買い物等を通じて馴染みの関係の維持・継続に配慮した支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が自由に関わる場合は見守りをし、輪に入りにくい場合は職員が声かけをし間に入ることにより孤立防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例なし		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに反映させ対応。日々の業務にて新たな課題にはその都度対応している。	希望・意向の聴取や暮らしの中での言動の把握・記録に努め、サービスに活かす取り組みをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族より「暮らしの状況」用紙に記入してもらい経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務での観察、コミュニケーションの内容は介護記録に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員の観察から出てくる意見を考慮反映し、スタッフ会議やユニット会議にて個別ケアの話し合いを行っている。	介護計画は、身体ケアに留まらず、本人の希望等も活かすために関係者が相談して作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し月1回のユニット会議にて相談検討しケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調などの合わせて適宜福祉用具をレンタル購入したり歯科や眼科の往診や歯科衛生士による訪問も継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人が花や果物などの季節を感じる物を届けてくれるので、入居者様がその花を生けてくれ楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の定期往診がある。また、体調悪化時は、その都度電話連絡し支持を仰いだり適宜往診も受けている。	かかりつけ医の受診は入居時に相談し、本人の希望を優先に支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により週1回の訪問看護を定期で受けており、訪問時には最近の体調などを伝え対応の相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホームからのサマリーなどを持参し心身の状態や暮らしぶりを伝えている。また、体調が落ち着いてきたら面会に行き退院の時期や注意点などの情報交換を行っている。退院時は病院側からサマリーなども頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針について説明し家族の意向確認などを行っている。	契約開始時に終末期への対応方針の説明をされています。なお、状態に変化が見られる都度関係者で相談し、希望に沿った対応をされています。また、看取りも行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故発生時のマニュアルを作成しているのでそれを職員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火避難訓練を実施、消防用設備などの点検も定期的に行っている。それを運営推進会議で報告し地域の人に協力を呼びかけた。また、スタッフ会議でも報告し職員に周知した。	定期的に避難訓練を実施されています。地域の協力体制の構築についても検討されています。	災害時には、利用者を迅速・安全に屋外へ誘導する事が求められます。このためには、周辺住民の協力が不可欠と考えますので、協力体制を整備されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議や所内研修などで認知症に人の理解や尊厳などの研修をしている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保を優先した支援の徹底に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びやレクレーション等への参加など自分の意向が反映できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の意見や意向を尊重しその人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を自己決定する時は生活場面や気温を考えてアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや調理の準備、食器拭きなど入居者様と協働で行っている。また、正月に入居者様の希望を取り入れたメニューにした。	暮らしの中で食事は楽しみの一つである事から、盛り付けや色彩等に工夫して提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に1日分の水分摂取量や食事量を記載し把握を行っている。水分量が少ない時はこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄を実施。個別の能力に合わせた声かけや援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックや水分チェックを行い排泄パターンを把握しトイレの声かけを行う事で排泄の支援を行っている。	排泄パターンの把握・記録と行動観察により、トイレ誘導を行い、自立排泄への支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すように適宜牛乳や黄粉牛乳を提供。毎朝食時はヨーグルトとバナナを提供し軽い運動も促しながら個別対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の意向を確認しながら入浴の援助を行っている。曜日の設定はしていない。	入浴日や入浴時間帯の設定は無く、一人ひとりの希望やペースに合わせた支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の生活習慣などに応じて休息や睡眠が取れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調管理表または薬の説明書により把握、変更等は業務日報や入居者様申し送りノートで各職員に連絡、周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにより各入居者様に合わせたレク活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向を確認して適宜散歩をしている。季節の良い時には弁当を持って外出したり日常的にもドライブにも行っている。	外出により受ける効果を理解し、事業所の敷地内や周辺散歩の日常化、ドライブ等による外出機会の確保に努められています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力のもと自宅への電話の取次ぎや知人家族への手紙、はがきの投函をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の花や飾りを取り入れ温かみのある照明や落ち着けるような音楽を取り入れている。	事業所内は清掃が行き届き、また、整理・整頓され、かつ、季節が感じられる適度な装飾も施され、穏やかに過ごせる共用空間が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーで寛いだり事務所前のカウンター席で話をしたり玄関前の椅子で一人で寛いだりなどできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのあるタンス、小道具や作品を置き居心地の良い環境にしている。	利用者が使い慣れた好みの品々が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで両ユニットの入居者様同士も交流出来るような環境を作っている。		